☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

# 報道で見る氷上西高　２０２０

丹波新聞　令和３年２月２８日（日）

## 地域貢献活動の模範

### 氷上西高校「丹波狭路賞」　安部将弥君が受賞

他の生徒の模範になる顕著な活動を行った卒業生を顕彰する氷上西高校の「丹波狭路賞」が25日、安部将弥君（3年）に贈られた。安部君は3つの部活を掛け持ちし、生徒会長も務め、八面六臂の活躍。地域貢献活動への積極的な参加が評価された。新型コロナウイルスの感染拡大で活動が制限され、「3年生であまり活動ができなかったことに悔いはあるが、素晴らしい賞を頂いた」と喜んでいる。今年度の同賞は安部君1人。（足立智和）

### 3部活掛け持ち、会長も

まちづくり部の部長、吹奏楽部副部長、フットサル部の部員を掛け持ちし、2年生の後半から3年生の前半にかけて生徒会長。これらの活動と並行して受験勉強もし、推薦入試で第1志望の4年制看護大学に合格した。

なっているまちづくり部と吹奏楽部は、イベント火、金曜と活動日が重が近い方に集中して参加した。

まちづくり部は、校外に出て地域と関わり活動する同校の特色ある部活動で、学校近くで開かれる「八宿まつり」、空き家を使った生徒の遊び場「放課後カフェ」などに関わり、青垣中の文化祭や「道の駅の夕べ」などのイベントでバリトンサックスを吹いた。

部活、生徒会活動に八面六臂のがんばりで、今年度ただ1人の「丹波狭路賞」を受賞した安部将弥君＝青垣町佐治で

まちづくり部長になり、自分たちで野菜を育て生徒に提供する「放課後レストラン」を企画したものの、コロナ禍で実現できず、イベントも軒並み中止に。生徒会長として携わるはずだった体育大会も、秋の代替わり後に延期になり、深く関わることができなかったことを残念に思っている。

一方、高校2年の秋にインターンシップで訪れた大塚病院で看護師の仕事に触れ、将来就く職業にと思いを強くした。コロナ禍、医療従事者の家族が差別的な扱いを受けている報道に触れ、心を痛めた。「医療従事者がいなかったら、コロナで助かる人も助からなかった。人に頼られる看護師になりたいと強く思った」と言う。

進学で丹波市を離れる。「校外活動でお世話になった地域の人やボランティアで知り合った人との交友関係を今後も保ちたい。まだ、高校に入学したての気持ちが残っています」とあどけない笑みを浮かべた。

山口文和校長は「地域に断トツで出かけ、積極的にボランティアに励んでくれた」とたたえた。

### 児童養護施設　睦の家から通学

安部君は4年弱暮らした児童養護施設「睦の家」（青垣町文室）を退所し、体調が改善した親元から大学に通う。

親に健康上の問題が生じ、中学3年の夏休みに突然、県内沿岸の都市部から「睦の家」へ。海辺から山深い土地へ1人で引っ越し。丹波栗、丹波の黒豆は聞いたことがあったが、丹波がどこにあるのかすら知らなかった。着いたのが夜。街灯、家の明かりも少なく、夜の暗さが心細く、不安を覚えた。

児童養護施設に関する知識もなかった。「怖い人がいるんじゃないか」と心配だったが、実際は正反対だった。「みんな優しく、職員さんは自分たちがしたいことを親身に、一番に聞いてくれた。相談しやすく、生活上、苦痛に感じることはなかった。年下の子と遊ぶので、孤独も感じなかった。1人の時間が欲しいときは、自分の個室で過ごした」

1学年400人の大規模校から1学年2学級の青垣中に転入。高校も1学級。友だちは自然にできた。学校で家庭の境遇を理由に差別を受けることは、一切なかった。「保護者会で、親代わりの『睦の家』の職員さんたちが、自分たちのことを説明してくれていたんだろうと思う」と、気配りに感謝する。

「施設に入所した自分だから理解できる境遇や気持ちがある。将来何かのきっかけで、施設と関わることがあったら、子どもの話を聞くなり自分の体験を話すなり、力になれることがあるんじゃないかと思う」と、静かに話した。